

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

医学部では、プログラムを構成する授業科目「医学情報リテラシー」の1単位を取得すること。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
医学情報リテラシー	1	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
医学情報リテラシー	1	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
医学情報リテラシー	1	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
医学情報リテラシー	1	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
医学情報リテラシー	1	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・Society 5.0、データ駆動型社会、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、人間の知的活動とAIの関係性「医学情報リテラシー」(1回目・72回目・10回目～15回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル、Ai最新技術の活用例「医学情報リテラシー」(1回目・72回目・10回目～15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ「医学情報リテラシー」(2回目) ・人の行動ログデータ、データのオープン化「医学情報リテラシー」(3～7回目)
	1-3	・AI活用領域の広がり、研究開発、判断支援、活動代替「医学情報リテラシー」(1回目・72回目・10回目～15回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化「医学情報リテラシー」(4回目～7回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと「医学情報リテラシー」(2回目・10回目～15回目) ・今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビックデータ、認識技術「医学情報リテラシー」(7回目) ・データ解析、データ可視化、モデル化とシミュレーション「医学情報リテラシー」(8回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「医学情報リテラシー」(1回目・72回目・10回目～15回目)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ倫理「医学情報リテラシー」(8回目・9回目) ・個人情報保護「医学情報リテラシー」(15回目) ・AIサービスの責任論・データ・AI活用における負の事例紹介「医学情報リテラシー」(2回目・10回目～15回目) ・ELSI、AI社会原則「医学情報リテラシー」(1回目) ・データバイアス、AI活用における負の事例紹介「医学情報リテラシー」(7回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ「医学情報リテラシー」(第2回、第10回) ・悪意ある情報搾取、パスワード「医学情報リテラシー」(6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「医学情報リテラシー」(63回目・15回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・クロス集計表「医学情報リテラシー」(5回目) ・統計情報の正しい理解「医学情報リテラシー」(97回目・8回目) ・データの種類、代表値、データのばらつき「医学情報リテラシー」(9回目) ・相関と因果「医学情報リテラシー」(10回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現、データの比較、不適切なグラフ表現、優れた可視化事例の紹介「医学情報リテラシー」(5回目～9回目) ・データの表現「医学情報リテラシー」(2回目、12回目) ・不適切なグラフ表現「医学情報リテラシー」(12回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「医学情報リテラシー」(13～14回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計、データの並び替え、データ解析ツール、表形式のデータ(GSV)「医学情報リテラシー」(54回目～9回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「医学情報リテラシー」(2回目、4～5回目、8～12回目) ・データの集計「医学情報リテラシー」(4回目) ・データの並び替え「医学情報リテラシー」(5回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会やSociety 5.0の概念、および、医学/医療領域との関連について説明できる ・AI、IoT、ロボット、XRなどの現状、今後の展開と、医学/医療領域との関連について説明できる ・データリテラシーの視点(読む/説明する/扱う)を踏まえたデータ分析、資料作成、発表ができる ・データやAIを扱う、および、データを守る上で留意すべき点を含む情報倫理、情報セキュリティについて理解し十分な対応ができる

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/infoed/mdash/

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

看護学部では、プログラムを構成する授業科目「情報リテラシー」(1単位)および「情報リテラシー演習」(1単位)の計2単位を取得すること。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
情報リテラシー	1+2	○	一部開講	○	○						
情報リテラシー演習	1	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
情報リテラシー	1+2	○	一部開講	○	○						
情報リテラシー演習	1	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
情報リテラシー	1+2	○	一部開講	○	○						
情報リテラシー演習	1	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報リテラシー	1+2	○	一部開講	○	○						
情報リテラシー演習	1	○	一部開講	○							

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報リテラシー	1+2	○	一部開講	○	○	○							
情報リテラシー演習	1	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・Society 5.0、データ駆動型社会、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、人間の知的活動とAIの関係性「情報リテラシー」(1回目、7回目、158回目) ・Society 5.0、データ駆動型社会、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、人間の知的活動とAIの関係性「情報リテラシー演習」(1回目～5回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル、Ai最新技術の活用例「情報リテラシー」(1回目・7回目・158回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル、Ai最新技術の活用例「情報リテラシー演習」(1回目～5回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ「情報リテラシー演習」(26回目) ・人の行動ログデータ、データのオープン化「情報リテラシー演習」(740回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・AI活用領域の広がり、研究開発、判断支援、活動代替「情報リテラシー」(1回目、7回目、158回目) ・AI活用領域の広がり、研究開発、判断支援、活動代替「情報リテラシー演習」(1回目～5回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビックデータ、認識技術「情報リテラシー演習」(710回目) ・データ解析、データ可視化、モデル化とシミュレーション「情報リテラシー演習」(812回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報リテラシー」(1回目・7回目・158回目) ・ヘルケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報リテラシー演習」(1回目～5回目)
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れられる権利「情報リテラシー」(3回目) ・データ倫理「情報リテラシー」(第6回) ・ELSI、AI社会原則「情報リテラシー」(1回目) ・データバイアス、AI活用における負の事例紹介「情報リテラシー演習」(710回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・悪意ある情報搾取、パスワード「情報リテラシー」(62回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー」(4回目～6回目、15回目)
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・統計情報の正しい理解「情報リテラシー」(93回目) ・クロス集計表「情報リテラシー演習」(58回目) ・データの種類、代表値、データのばらつき「情報リテラシー演習」(9回目) ・相関と因果「情報リテラシー演習」(1013・14回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データの表現「情報リテラシー演習」(6・13・2回目、1214回目) ・不適切なグラフ表現「情報リテラシー」(12回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「情報リテラシー」(13～14回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・表形式のデータ(CSV)「情報リテラシー演習」(56回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「情報リテラシー演習」(2回目、4～5回目、8～126・7・11回目) ・データの集計「情報リテラシー演習」(47回目) ・データの並び替え「情報リテラシー演習」(58回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会やSociety 5.0の概念、および、医学/医療領域との関連について説明できる ・AI、IoT、ロボット、XRなどの現状、今後の展開と、医学/医療領域との関連について説明できる ・データリテラシーの視点(読む/説明する/扱う)を踏まえたデータ分析、資料作成、発表ができる ・データやAIを扱う、および、データを守る上で留意すべき点を含む情報倫理、情報セキュリティについて理解し十分な対応ができる

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<p>https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/infoed/mdash/</p>
--

医学情報リテラシー

科目責任者 坂 東 宏 和
学年・学期 1 学年・1 学期

③

I. 前 文

情報化社会の進展により、医療分野においても情報通信技術（ICT）の導入が進んでいる。さらに、インターネットの広がりや、従来接続されていなかった様々なモノがインターネットに接続され相互に情報交換を行うIoTの進展などにより、大量のデータ（ビッグデータ）が生み出され、それらを活用する技術であるAI（人工知能）のさらなる進化により、医療分野を含む様々な分野において、より高度な情報技術の活用が進むと予想される。このような時代において医師を志す皆さんには、従来からのICT活用リテラシーに加えて、新たな情報技術に柔軟に対応し、それらを日々の生活や学業、医療人としての活動において当たり前のように活用できる素養を身につけていることが求められる。そこで本科目では、従来からのICT活用リテラシーに加えて、情報化時代における「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎的な力をバランスよく学修する。

なお本科目は、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが策定した、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムに準拠しており、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されている（認定の有効期限：令和9年3月31日まで）。

II. 担当教員

情報基盤センター

山 下 真 幸 情報基盤センター 准教授
坂 東 宏 和 情報基盤センター 講師

⑥

III. 一般学習目標

- 1) AIなどの新しい情報技術の概要を理解する。
- 2) 社会におけるデータ・AI利活用の状況を把握し、医療分野との関連を理解する。
- 3) 医療人として必要なデータリテラシー（データを読む・説明する・扱う）を身につける。
- 4) データ・AIを扱う上で留意すべき点、データを守る上で留意すべき点を含め、情報倫理・情報セキュリティについて理解する。

①

IV. 学修の到達目標

- 1) AIなどの新しい情報技術の概要を説明できる。
- 2) 社会におけるデータ・AI利活用の状況、特に、医療分野での状況を説明できる。
- 3) データやAIなどの新しい情報技術を、日々の生活や学業、医療人としての活動の場において活用できる。
- 4) データを適切に読み解き、集計した上で、適切な可視化手法によって他者に説明できる。
- 5) データ・AIを扱う上で留意すべき点、データを守る上で留意すべき点、情報倫理等を遵守し、データやAIなどの様々な情報技術を安全に活用できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

④

Aクラス						講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
回数	月	日	曜日	時限				
1	4	16	火	6	社会におけるデータ・AI活用／データ駆動型社会とデータサイエンス／AIの歴史と応用分野[I]／最新の情報技術と医療／データ・AIを扱う上での留意事項[I]	坂 東 宏 和 山 下 真 幸	4	
2		22	月	4	データリテラシーとは [I]		2,4	
3		25	木	6	データリテラシーとは [II]		4	
4		25	木	7	データリテラシー（データを扱う）[I]		4	
5	5	7	火	6	データリテラシー（データを扱う）[II]		4	
6		14	火	7	データを守る上での留意事項[I]／セキュリティ対策／情報発信を行う上での留意事項		2,4	
7		20	月	6	データ・AI利活用のための技術[I]／ビッグデータとデータエンジニアリング／深層学習の基礎と展望／社会で活用されているデータ／データ・AIを扱う上での留意事項[II]／データを守る上での留意事項[III]／AIと社会[I]		2,4	
8		20	月	7	データ・AI利活用のための技術 [II]		4	
9		27	月	6	データリテラシー（データを読む）[I]／数学基礎[I]		4	
10		27	月	7	データリテラシー（データを読む）[III]／数学基礎[II]／分析設計		2,3,4	
11	6	3	月	6	アンケート分析演習		2,3,4	
12		3	月	7	データリテラシー（データを説明する）[I]		2,3,4	
13		11	火	7	データリテラシー（データを説明する）[II]		2,3,4,5	
14		17	月	4	データリテラシー（データを説明する）[III]		2,3,4,5	
15		17	月	5	医療における最新の情報技術活用事例／AIの歴史と応用分野[III]／AIと社会[III]／データ・AIを扱う上での留意事項[III]／総括		4	
Bクラス						講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
回数	月	日	曜日	時限				
1	4	16	火	7	社会におけるデータ・AI利活用／データ駆動型社会とデータサイエンス／AIの歴史と応用分野[I]／最新の情報技術と医療／データ・AIを扱う上での留意事項[I]	坂 東 宏 和 山 下 真 幸	4	
2		22	月	5	データリテラシーとは [I]		2,4	
3		30	火	6	データリテラシーとは [II]		4	
4		30	火	7	データリテラシー（データを扱う）[I]		4	
5	5	7	火	7	データリテラシー（データを扱う）[II]		4	
6		14	火	6	データを守る上での留意事項[I]／セキュリティ対策／情報発信を行う上での留意事項		2,4	

②

④

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
7	5	21	火	6	データ・AI利活用のための技術[I]／ビッグデータとデータエンジニアリング／深層学習の基礎と展望／社会で活用されているデータ／データ・AIを扱う上での留意事項[II]／データを守る上での留意事項[III]／AIと社会[I]	坂 東 宏 和 山 下 真 幸	2, 4
8		21	火	7	データ・AI利活用のための技術 [II]		4
9		28	火	6	データリテラシー（データを読む） [II]／数学基礎[I]		4
10		28	火	7	データリテラシー（データを読む） [III]／数学基礎[II]／分析設計		2, 3, 4
11	6	4	火	6	アンケート分析演習		2, 3, 4
12		4	火	7	データリテラシー（データを説明する） [I]		2, 3, 4
13		11	火	6	データリテラシー（データを説明する） [II]		2, 3, 4, 5
14		18	火	6	データリテラシー（データを説明する） [III]		2, 3, 4, 5
15		18	火	7	医療における最新の情報技術活用事例／AIの歴史と応用分野 [III]／AIと社会[III]／データ・AIを扱う上での留意事項[III]／総括		4

②

⑦

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

「定期試験」（50%）, 「課題（事前・事後学習課題）および授業内での議論・発表等」（50%）を基に総合的に評価する。

定期試験は、情報に関する技能の習熟度を判定するため、PC教室においてPCを用いた形式で実施する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

必要な資料等を、授業日の1週間前までに、LMS上で配布する。

VIII. 質問への対応方法

授業中および授業終了直後等に適宜対応する。

また、情報基盤センター（教室棟1階A105室）で随時受け付ける。原則として平日の9時から17時で対応するが、状況によって別途時間を調整する。

なお、電子メール（cict@dokkyomed.ac.jp）で質問しても良い。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

LMS等を利用して，一部の課題の採点結果を個別に通知する。

LMS等を利用して，課題等の全体的な講評・解説を行う。また，必要に応じて授業中に講評・解説を行う。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

授業の1週間前までに，LMS上に授業資料，課題等を掲示するので，適宜確認し対応すること。

指定された課題の提出に加えて，LMS上に提示された授業スライドを事前に確認し，概要を把握しておくこと。

前時の事後学習と当時の事前学習とを合わせて，概ね60分程度の時間を要する。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01-02-02, PR-03-01-02, LL-02-01-01, LL-02-01-02, RE-01-01-01, RE-01-02-01, RE-04-01-01~03,

IT-01-01-01~03, IT-01-02-01~02, IT-02-01-01~02, IT-02-02-01, IT-03-01-02, IT-03-02-01~02,

SO-02-03-01, SO-02-03-04

令和6年度 学科目一覧（第1学年）

区分	科目名	科目責任者	科目コード	1学期	2学期	3学期	合計	開設単位	必要単位	備考
必修	教養医科学	吉田 謙一郎	DM1101	14			14	0.5	0.5	
	これからの時代を生き抜くための医師のキャリアプラン	平田 幸一	DM1102	18	7		25	1.5	1.5	
	メディカル・プロフェッショナリズムI	種市 洋	DM1501	21	7	12	40	2.5	2.5	
	アカデミック・スキル	矢澤 卓也	DM1103	18			18	1	1	
	地域医療学	千種 雄一	DM1701	10	1		11	0.5	0.5	
	コミュニティヘルスインターンシップ(CHI) (地域医療早期体験実習)	千種 雄一	DM1702	36			36	1	1	
	⑤ 医学情報リテラシー	坂東 宏和	DM1104	15			15	1	1	
	スポーツ科学	村山 晴夫	DM1105	9	5		14	0.5	0.5	
	総合英語AI	飯塚 秀樹	DM1106	14			14	0.5	0.5	
	総合英語B	飯塚 秀樹	DM1107	6	6		12	0.5	0.5	
	医学英語I	矢澤 卓也	DM1301	3			3	0.5	0.5	
	数学	小笠原 健	DM1201	20			20	1	1	
	人体の物理学I	藤森 俊明	DM1202	15			15	1	1	
	生体関連化学基礎	馬籠 信之	DM1203	8	12		20	1	1	
	物質の科学	奥田 竜也	DM1204	10	10		20	1	1	
	細胞の生物学I	阿部 渉	DM1205	20			20	1	1	
	外科入門	千田 雅之	DM1302		6		6	0.5	0.5	
	早期臨床体験実習	千田 雅之	DM1303		14		14	0.5	0.5	
	総合英語AII	飯塚 秀樹	DM1108		14		14	0.5	0.5	
	人体の物理学II	藤森 俊明	DM1206		15		15	1	1	
	細胞の生物学II	阿部 渉	DM1207		20		20	1	1	
	物理学実験	藤森 俊明	DM1208		20		20	0.5	0.5	
	化学実験	馬籠 信之	DM1209		20		20	0.5	0.5	
	生物学実習	阿部 渉	DM1210		20		20	0.5	0.5	
	統計学	小笠原 健	DM1211		9	9	18	1	1	
	総合英語AIII	飯塚 秀樹	DM1109			14	14	0.5	0.5	
	PBLテュートリアルI	小嶋 英史	DM1110			18	18	1	1	
	解剖学概論	徳田 信子	DM1304			15	15	1	1	
	骨学・筋学	徳田 信子	DM1305			24	24	1	1	
	組織学総論	徳田 信子	DM1306			21	21	1	1	
人体の発生学	徳田 信子	DM1307			15	15	1	1		
生理学総論と生体の情報	神作 憲司	DM1308			18	18	1	1		
生体分子とその代謝	杉本 博之	DM1309			33	33	2	2		
消化吸収と栄養の代謝	杉本 博之	DM1310			23	23	1	1		
医学分子生物学	矢澤 卓也	DM1311			11	11	0.5	0.5		
選択必修	人文自然選択I									
	社会思想史	竹内 高明	DM1111							
	異文化間コミュニケーション	飯塚 秀樹	DM1112							
	イギリス文学概論① 古英語文学からシェイクスピアまで	廣田 美玲	DM1113							
	異文化理解—ヨーロッパ編	小川 和彦	DM1114							
	文章の論理	菊池 昌彦	DM1115							
	異文化理解—中国編	小島遊 信子	DM1116							
	文学	頼母木 孝子	DM1117							
	生命と死を考える	馬籠 信之	DM1118							
	How to practice English	C. Smith	DM1119							
	生命倫理と社会の課題を考えよう	上 杉 奈々	DM1120							
	医療と人間・文化・社会	松岡 佐知	DM1121							
	名画で鍛える診療のエッセンス	森 永康平	DM1122							
				7			7	0.5	0.5	いずれか1科目を履修。

令和6年度 学科目一覧（第1学年）

区分	科目名	科目責任者	科目コード	1学期	2学期	3学期	合計	開設単位	必要単位	備考
自然科学系	医用材料学	奥田 竜也	DM1123							
	化学実験の基本	梅澤 規子	DM1124							
	薬用・有毒植物図鑑をつくろう！	阿部 渉	DM1125							
	発生・生殖生物学	川瀬 撰	DM1126							
	健康科学（スポーツ外傷とスポーツテーピング）	村山 晴夫	DM1127							
	アダブテッド・スポーツ	枝 伸彦	DM1128							
	日本発の医療・創薬を学ぶ	相澤 直樹	DM1129							
	がん細胞を扱おう	矢澤 卓也	DM1130							
	脳内認知機能・統合失調症研究法	大川 宜昭	DM1131							
	医学・生物学研究のためのプロレゴメナ	W. R. Ade	DM1132							
人文自然選択II										
人文社会学系	医療と人権I	竹内 高明	DM1133							
	イギリス文学概観② ゴシック小説と女性作家	廣田 美玲	DM1134							
	異文化理解—ヨーロッパ編 旅、文化、歴史	小川 和彦	DM1135							
	失敗の考察	菊池 昌彦	DM1136							
	中国語—音読	小島遊 信子	DM1137							
	文学	頼母木 孝子	DM1138							
	19世紀フランスの食とブリヤ＝サヴァラン	宮川 知子	DM1139							
	生命と死を考える	馬籠 信之	DM1140							
	臨床心理学	野畑 友恵	DM1141							
	コミュニケーション科学	入江 駿	DM1142							
	人を対象とする医学研究の倫理を考えよう	上杉 奈々	DM1143							
	最後の日々と時間	W. R. Ade	DM1144							
	名画で鍛える診療のエッセンス	森 永康平	DM1145		7		7	0.5	0.5	いずれか1科目を履修。
自然科学系	医用材料学	奥田 竜也	DM1146							
	化学実験の基本	梅澤 規子	DM1147							
	薬用・有毒植物図鑑をつくろう！	阿部 渉	DM1148							
	発生・生殖生物学	川瀬 撰	DM1149							
	数学的思考法を学ぶ	小笠原 健	DM1150							
	健康科学（スポーツ外傷とスポーツテーピング）	村山 晴夫	DM1151							
	がん細胞を扱おう	矢澤 卓也	DM1152							
	遺伝子工学入門：光る大腸菌を作ろう！	布 矢 純一	DM1153							
	がん免疫療法の誕生	杉本 智慧	DM1154							
ノーベル賞から学ぶ免疫学	小嶋 英史	DM1155								
国際感染症学入門	桐木 雅史	DM1156								
人文自然選択III										
人文社会学系	医療と人権II	竹内 高明	DM1157							
	異文化間コミュニケーション	飯塚 秀樹	DM1158							
	イギリス文学概観③ ディケンズ、推理小説、イングリッシュ	廣田 美玲	DM1159							
	医学の中のドイツ語	能登 慶和	DM1160							
	異文化理解—ヨーロッパ編	小川 和彦	DM1161							
	文章の論理	菊池 昌彦	DM1162							
	異文化理解—中国編	小島遊 信子	DM1163							
	文学	頼母木 孝子	DM1164							
	19世紀フランスの食とブリヤ＝サヴァラン	宮川 知子	DM1165							
	生命と死を考える	馬籠 信之	DM1166							
	発達心理学	野畑 友恵	DM1167							
	コミュニケーション科学	入江 駿	DM1168			7	7	0.5	0.5	いずれか1科目を履修。
	医療倫理と決断の悩ましさを考えよう	上杉 奈々	DM1169							
名画で鍛える診療のエッセンス	森 永康平	DM1170								

令和6年度 学科目一覧（第1学年）

区分	科目名	科目責任者	科目コード	1学期	2学期	3学期	合計	開設単位	必要単位	備考
自然科学系	放射線の基礎と医療	藤森俊明	DM1171							
	医用材料科学	奥田竜也	DM1172							
	化学実験の基本	梅澤規子	DM1173							
	薬用・有毒植物図鑑をつくろう！	阿部 渉	DM1174							
	発生・生殖生物学	川瀬 撰	DM1175							
	数学的思考法を学ぶ	小笠原 健	DM1176							
	スポーツ医学について学ぶ	枝 伸彦	DM1177							
	3Dプリンタを使ってみよう	高橋 俊光	DM1178							
	工学発展と医学研究	W. R. Ade	DM1179							
	語学選択									
ドイツ語	能登慶和	DM1180	14	10	11	35	2	2	いずれか1科目を履修。	
フランス語	宮川知子	DM1181								
中国語	小島遊 信子	DM1182								
ロシア語	竹内高明	DM1183								
自由選択	医学研究室配属 I	矢澤卓也	DM1601					1		※1履修科目として登録できる単位数は、3単位を上限とする。 ※2医学研究室配属は配属先を複数選択できるが、1つの配属先につき1単位として計算する。
	地域包括医療実習 I	金子 聖太郎	DM1703					1		
	物質の科学演習	奥田竜也	DM1212					0.5		
	化学（基礎）	梅澤規子	DM1213					0.5		
	病理学演習	矢澤卓也	DM1312					0.5		
	細胞の生物学 I 勉強会	川瀬 撰	DM1214					0.5		
	細胞の生物学 II 勉強会	阿部 渉	DM1215					0.5		
	やさしくわかる臨床疫学・統計解析	小橋 元	DM1216					0.5		
	再生医学入門	小橋 元	DM1313					0.5		
	読書会	北村 聖	DM1184					0.5		
	眼科	永田 万由美	DM1314					0.5		
	医療の歴史（性・内視鏡・がん）	釜井隆男	DM1315					0.5		
	社会医学と人権	木村真三	DM1316					0.5		
	最先端分子医学研究入門：楽しく実験、学会発表！	小川 寛之	DM1317					0.5		
計			258	203	231	692	42.5	34.5		

<看護学部>

授業科目 (英名)	情報リテラシー (Information Literacy)	授業科目コード	NN104129J
		科目責任者	坂東 宏和
⑥ 担当教員	坂東 宏和	保・助・養の受験資格	保健師 : 必修 助産師 : 必修 養教一種: 必修
担当形態	単独 クラス分け	施行規則に定める科目 科目区分又は事項	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
⑤ 2単位	必修	② 講義	30時間
1学年 1セメスター 基盤科目			

[授業の概要]

③ 高度情報社会において必要とされる倫理感を身につけ、適切な情報手段を自主的に選択し、活用していくための基本的な知識について学修する。また、それらの知識を活用した情報機器の操作方法、コンピュータの基本的な操作方法や統計処理技術を修得する。

[授業の目的]

① 「DP4.プロフェッショナリズムを身につけ、倫理的行動をとることができる」力を養うために、高度情報社会において必要とされる倫理感を身につけ、適切な情報手段を選択・活用するための基本的な知識・技術について学修する。

[到達目標]

1. データや最新の情報技術(AI等)の活用により医療現場や社会が大きく変化していることを踏まえた上で、それらを活用することの利点と課題、倫理的な問題点、現状と今後を説明する。
2. 情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な技術を身につけ、主体的学修や日々の生活において活用する。
3. データリテラシー(データを読む・説明する・扱う)を身につけ、データの分析・まとめ、データに基づく適切な判断を行う。
4. データ・AIを扱う上での留意事項、および、データを守る上での留意事項を遵守し、データ・AIを安全に活用する。
5. 情報発信を行う上での留意事項を遵守し、倫理に反しない適切な情報発信をする。

Aクラス

クラス	回数	月	日	曜日	時限	授業計画	授業外学習		担当者
							事前学習・事後学習	時間	
A	1	4	17	水	1	【講義】 社会におけるデータ・AI利活用/最新の情報技術と医療/データ・AIを扱う上での留意事項(1) 医療従事者を目指す皆さんが数理・データサイエンス・AIを学修する意義について理解する。 社会で起きている変化(Society5.0・データ駆動型社会等)、データ・AIの活用領域の広がり、サービス・公共等におけるデータ・AI活用事例、AI等を活用した新しいビジネスモデル等の概要を理解する。 具体的な事例を通して、医療・看護・介護現場でのAI等の情報技術の活用について理解する。 AIを扱う上での留意事項(ELSI、AI社会原則等)について理解する。 補足キーワード: データ駆動型社会とデータサイエンス・AIの歴史と応用分野	事後学習: 授業内で理解した内容を簡単にまとめ、LMSから提出する。	30分	坂東 宏和 ④ (ハイライト部分②)
A	2	4	18	木	3	【講義・演習】 データリテラシーとは(1) 総務省統計局が公表している「人口推計」のデータを用いて将来の人口分布を予測する演習により、データ解析ツール(表計算ソフトウェアExcel)の基本的な活用方法を学修する。	事後学習: 授業中に予測した将来の人口分布の予測精度を高めるための工夫を行う。	30分	
A	3	4	24	水	1	【講義・演習】 データリテラシーとは(2) 総務省統計局が公表している「人口推計」のデータを用いて将来の人口分布を予測した結果をレポートにまとめる演習により、レポー	事後学習: 将来の人口分布を予測した結果を指定された内容・体裁でレポートにまとめ、LMSから提出する。	30分	

クラス	回数	月	日	曜日	時限	授業計画	授業外学習		担当者
							事前学習・事後学習	時間	
						ト・論文等の基本的な体裁／ルールを理解する。 参考文献等を適切に明示できるようにする。 著作権を理解し、著作物等を適切に活用できるようにする。 情報の信頼性を考慮した、適切な情報検索の方法を理解する。			④ (ハイライト部分②)
A	4	5	2	木	3	【講義・演習】データリテラシー(データを扱う)(1) 仮想的なデータを利用し、表計算ソフトウェア(Excel)を活用した基本的なデータの集計方法(和や平均等)、絶対・相対参照の考え方、グラフ等の作成方法を学修する。	事後学習:LMSに掲載されている、授業内容を復習するための課題を行う。	30分	
A	5	5	9	木	3	【講義・演習】データリテラシー(データを扱う)(2) CSV形式で提供される簡単なアンケートの回答データを利用し、条件付き書式、並べ替え、フィルター、ピボットテーブル等に関する操作と活用方法を学修する。	事後学習:LMSに掲載されている、授業内容を復習するための課題を行う。	30分	
A	6	5	16	木	3	【講義・演習】データを守る上での留意事項(1)/セキュリティ対策/情報発信を行う上での留意事項 学生生活に必須であるコンピューターを利活用する上での注意点を理解する。 コンピュータウイルス等の脅威を知り、自らのコンピューターを守る方法を理解する。 自ら情報発信ができるSNS(Social Networking Service)の利用等における注意点を理解する。	事後学習:授業内で理解した内容を簡単にまとめ、LMSから提出する。	30分	
A	7	5	23	木	3	【講義・演習】データ・AI利活用のための技術(1)/データ・AIを扱う上での留意事項(2)/データを守る上での留意事項(2) コンピュータ、AI、機械学習の概要、ビッグデータがなぜ必要か、医療情報の匿名加工、データのオープン化、今のAIで出来ることと出来ないこと等について学修する。 医療情報・患者情報の取り扱い、倫理、規則などを理解する。 個人情報保護、データ・情報漏洩のリスクとその予防策・対応策を理解する。 データ・AI活用における負の事例を知り、それらを活用する上での留意事項を学修する。 補足キーワード:ビッグデータとデータエンジニアリング(クラウドサービス/ビッグデータ活用事例)・深層学習の基礎と展望(ニューラルネットワークの原理)・社会で活用されているデータ・AIと社会(プライバシー保護・個人情報の取り扱い)	事後学習:授業中に実施したAIを活用した演習の結果をまとめ、LMSから提出する。	30分	
A	8	6	6	木	3	【講義・演習】データ・AI利活用のための技術(2) データ解析・データの可視化の概要について学修する。 簡単なシミュレーションソフトウェアを活用した演習を行う。	事後学習:授業中に行ったシミュレーションの結果を簡潔にまとめ、LMSから提出する。	30分	
A	9	6	12	水	4	【講義・演習】データリテラシー(データを読む)(1) 授業中に実施した簡単なアンケートの回答データを利用し、統計解析の演習を行う。 データの種類(量的変数・質的変数)、代表値の意味と違い(平均値・中央値・最頻値)、データのばらつき(分散)等を理解し、表計算ソフトウェアを用いて適切に計算・活用できるようにする。 補足キーワード:数学基礎・標準偏差	事後学習:グループごとに「アンケート分析演習」で実施する「調査・分析のためのアンケート」の内容について検討する。	30分	
A	10	6	13	木	3	【講義・演習】データリテラシー(データを読む)(2) 授業中に実施した簡単なアンケートの回答データを利用し、統計解析の演習を行う。 相関やt検定などの意味を理解し、表計算ソフトウェアを用いて計算・活用できるようにする。 グループごとに「アンケート分析演習」で実施する「調査・分析のためのアンケート」の具体的な設問を検討する。	事後学習:グループごとに「アンケート分析演習」で実施する「調査・分析のためのアンケート」をLMS上で作成する。	30分	

クラス	回数	月	日	曜日	時限	授業計画	授業外学習		担当者
							事前学習・事後学習	時間	
						補足キーワード: 数学基礎・分析設計(データ分析の進め方/仮説検証サイクル)			④ (ハイライト部分②)
A	11	6	20	木	3	【演習】アンケート分析演習 グループごとに作成した「調査・分析のためのアンケート」を、相互に回答しあう。 回答データをLMSからダウンロードし、表計算ソフトウェアを活用して、適宜グループ内でディスカッションしながら分析する。	事後学習:「調査・分析のためのアンケート」の回答データの分析の続きを行う。	30分	
A	12	6	27	木	3	【講義・演習】データリテラシー(データを説明する)(1) データの表現方法(不適切なグラフ表現、不必要な視覚的要素等)を学修する。 「調査・分析のためのアンケート」の回答データを、表計算ソフトウェアを活用して自由に分析する。 分析した結果を、指定された内容・体裁でレポートにまとめる。	事後学習:「調査・分析のためのアンケート」の回答データの分析の続きを行う。	30分	
A	13	7	10	水	5	【講義・演習】データリテラシー(データを説明する)(2) 効果的な発表を行うためのポイントを学修する。 「調査・分析のためのアンケート」の回答データを分析した結果を発表するための準備を行う。 プレゼンテーションソフトウェア(Power Point)を活用して、発表のためのスライドを作成する。	事後学習:「調査・分析のためのアンケート」の回答データを分析した結果を発表するための準備の続きを行う。	30分	
A	14	7	17	水	5	【演習】データリテラシー(データを説明する)(3) 「調査・分析のためのアンケート」の回答データを分析した結果を相互に発表しあい、相互評価を行う。 相互評価の結果に基づく発表内容の改善を行う。	事後学習:発表に使用したスライドの改善を行い、最終版をLMSから提出する。	30分	
A	15	7	18	木	4	【講義】医療における最新の情報技術活用事例 AI等の最新の情報技術により、医療・看護・介護現場がどのように変化しているかを再確認する。 本授業全体を通してのまとめと確認を行う。 補足キーワード: AIの歴史と応用分野(汎用AI/特化型AI/強いAI/弱いAI/AI技術の活用領域の広がり)・AIと社会(AIに関する原則/AIの公平性)・データとAIを扱う上での留意事項(データとAI活用における負の事例)	事後学習:本授業で学んだことの概要をLMSから提出する。	30分	
Bクラス									
クラス	回数	月	日	曜日	時限	授業計画	授業外学習		担当者
							事前学習・事後学習	時間	
B	1	4	17	水	2	【講義】社会におけるデータ・AI活用/最新の情報技術と医療/データ・AIを扱う上での留意事項(1) 医療従事者を目指す皆さんが数理・データサイエンス・AIを学修する意義について理解する。 社会で起きている変化(Society5.0・データ駆動型社会等)、データ・AIの活用領域の広がり、サービス・公共等におけるデータ・AI活用事例、AI等を活用した新しいビジネスモデル等の概要を理解する。 具体的な事例を通して、医療・看護・介護現場でのAI等の情報技術の活用について理解する。 AIを扱う上での留意事項(ELSI、AI社会原則等)について理解する。 補足キーワード: データ駆動型社会とデータサイエンス・AIの歴史と応用分野	事後学習:授業内で理解した内容を簡単にまとめ、LMSから提出する。	30分	坂東 宏和
B	2	4	18	木	4	【講義・演習】データリテラシーとは(1) 総務省統計局が公表している「人口推計」のデータを用いて将来の人口分布を予測する	事後学習:授業中に予測した将来の人口分布の予測精度を高めるための工夫を行う。	30分	

クラス	回数	月	日	曜日	時限	授業計画	授業外学習		担当者
							事前学習・事後学習	時間	
						演習により、データ解析ツール(表計算ソフトウェアExcel)の基本的な活用方法を学修する。			④ (ハイライト部分②)
B	3	4	24	水	2	【講義・演習】データリテラシーとは(2) 総務省統計局が公表している「人口推計」のデータを用いて将来の人口分布を予測した結果をレポートにまとめる演習により、レポート・論文等の基本的な体裁/ルールを理解する。参考文献等を適切に明示できるようにする。著作権を理解し、著作物等を適切に活用できるようにする。情報の信頼性を考慮した、適切な情報検索の方法を理解する。	事後学習: 将来の人口分布を予測した結果を指定された内容・体裁でレポートにまとめ、LMSから提出する。	30分	
B	4	5	2	木	4	【講義・演習】データリテラシー(データを扱う)(1) 仮想的なデータを利用し、表計算ソフトウェア(Excel)を活用した基本的なデータの集計方法(和や平均等)、絶対・相対参照の考え方、グラフ等の作成方法を学修する。	事後学習:LMSに掲載されている、授業内容を復習するための課題を行う。	30分	
B	5	5	9	木	4	【講義・演習】データリテラシー(データを扱う)(2) CSV形式で提供される簡単なアンケートの回答データを利用し、条件付き書式、並べ替え、フィルター、ピボットテーブル等に関する操作と活用方法を学修する。	事後学習:LMSに掲載されている、授業内容を復習するための課題を行う。	30分	
B	6	5	16	木	4	【講義・演習】データを守る上での留意事項(1)/セキュリティ対策/情報発信を行う上での留意事項 学生生活に必須であるコンピューターを利活用する上での注意点を理解する。コンピュータウイルス等の脅威を知り、自らのコンピューターを守る方法を理解する。自ら情報発信ができるSNS(Social Networking Service)の利用等における注意点を理解する。	事後学習:授業内で理解した内容を簡単にまとめ、LMSから提出する。	30分	
B	7	5	23	木	4	【講義・演習】データ・AI利活用のための技術(1)/データ・AIを扱う上での留意事項(2)/データを守る上での留意事項(2) コンピュータ、AI、機械学習の概要、ビッグデータがなぜ必要か、医療情報の匿名加工、データのオープン化、今のAIで出来ることと出来ないこと等について学修する。医療情報・患者情報の取り扱い、倫理、規則などを理解する。個人情報保護、データ・情報漏洩のリスクとその予防策・対応策を理解する。データ・AI活用における負の事例を知り、それらを活用する上での留意事項を学修する。 補足キーワード:ビッグデータとデータエンジニアリング(クラウドサービス/ビッグデータ活用事例)・深層学習の基礎と展望(ニューラルネットワークの原理)・社会で活用されているデータ・AIと社会(プライバシー保護・個人情報の取り扱い)	事後学習:授業中に実施したAIを活用した演習の結果をまとめ、LMSから提出する。	30分	
B	8	6	6	木	4	【講義・演習】データ・AI利活用のための技術(2) データ解析・データの可視化の概要について学修する。簡単なシミュレーションソフトウェアを活用した演習を行う。	事後学習:授業中に行ったシミュレーションの結果を簡潔にまとめ、LMSから提出する。	30分	
B	9	6	12	水	3	【講義・演習】データリテラシー(データを読む)(1) 授業中に実施した簡単なアンケートの回答データを利用し、統計解析の演習を行う。データの種類(量的変数・質的変数)、代表値の意味と違い(平均値・中央値・最頻値)、データのばらつき(分散)等を理解し、表計算ソフトウェアを用いて適切に計算・活用できるようにする。 補足キーワード:数学基礎・標準偏差	事後学習:グループごとに「アンケート分析演習」で実施する「調査・分析のためのアンケート」の内容について検討する。	30分	
B	10	6	13	木	4	【講義・演習】データリテラシー(データを読む)(2)	事後学習:グループごとに「アンケート分析演習」で実施する「調査・分析のためのアンケート」の内容について検討する。	30分	

クラス	回数	月	日	曜日	時限	授業計画	授業外学習		担当者
							事前学習・事後学習	時間	
						授業中に実施した簡単なアンケートの回答データを利用し、統計解析の演習を行う。 相関や検定などの意味を理解し、表計算ソフトウェアを用いて計算・活用できるようにする。 グループごとに「アンケート分析演習」で実施する「調査・分析のためのアンケート」の具体的な設問を検討する。 補足キーワード: 数学基礎・分析設計(データ分析の進め方/仮説検証サイクル)	「アンケート」をLMS上で作成する。		④ (ハイライト部分②)
B	11	6	20	木	4	【演習】アンケート分析演習 グループごとに作成した「調査・分析のためのアンケート」を、相互に回答しあう。 回答データをLMSからダウンロードし、表計算ソフトウェアを活用して、適宜グループ内でディスカッションしながら分析する。	事後学習:「調査・分析のためのアンケート」の回答データの分析の続きを行う。	30分	
B	12	6	27	木	4	【講義・演習】データリテラシー(データを説明する)(1) データの表現方法(不適切なグラフ表現、不必要な視覚的要素等)を学修する。 「調査・分析のためのアンケート」の回答データを、表計算ソフトウェアを活用して自由に分析する。 分析した結果を、指定された内容・体裁でレポートにまとめる。	事後学習:「調査・分析のためのアンケート」の回答データの分析の続きを行う。	30分	
B	13	7	10	水	4	【講義・演習】データリテラシー(データを説明する)(2) 効果的な発表を行うためのポイントを学修する。 「調査・分析のためのアンケート」の回答データを分析した結果を発表するための準備を行う。 プレゼンテーションソフトウェア(Power Point)を活用して、発表のためのスライドを作成する。	事後学習:「調査・分析のためのアンケート」の回答データを分析した結果を発表するための準備の続きを行う。	30分	
B	14	7	17	水	4	【演習】データリテラシー(データを説明する)(3) 「調査・分析のためのアンケート」の回答データを分析した結果を相互に発表しあい、相互評価を行う。 相互評価の結果に基づく発表内容の改善を行う。	事後学習:発表に使用したスライドの改善を行い、最終版をLMSから提出する。	30分	
B	15	7	18	木	5	【講義】医療における最新の情報技術活用事例 AI等の最新の情報技術により、医療・看護・介護現場がどのように変化しているかを再確認する。 本授業全体を通してのまとめと確認を行う。 補足キーワード: AIの歴史と応用分野(汎用AI/特化型AI/強いAI/弱いAI/AI技術の活用領域の広がり)・AIと社会(AIに関する原則/AIの公平性)・データとAIを扱う上での留意事項(データとAI活用における負の事例)	事後学習:本授業で学んだことの概要をLMSから提出する。	30分	

⑦

【成績評価と基準】

「定期試験」(50%)、「課題への取り組みおよび授業内での発表」(50%)を基準に、総合的に評価する。
課題の具体的な内容および提出期限(原則として1週間後)については、各回の授業中に指示する。また、LMSに同様の内容を提示する。
授業は、コンピューターやタブレット端末の操作、グループワーク、ディスカッション等を含む形態で行う。
定期試験は、情報に関する技能の習熟度を判定するため、PC教室においてPCを用いた実技形式で実施する。

【履修上の注意】

授業の中でタブレット端末(iPad等)を利用するので、毎回持参すること。なお、基本的なタブレット端末の利用方法を理解していることを前提とする。
LMSを活用した授業である。授業外学習が必要になるので、必ずLMS上の情報を確認すること。
授業は、グループワーク、ディスカッション、相互評価、プレゼンテーション等を含む形態で行うため、授業外学習への取り組みと、授業への積極的な参加が求められる。

【教科書】

なし

【参考書・参考資料】

授業の進行に合わせて、必要な資料をLMSを利用して配布する。
また、参考図書等についても必要に応じて指示する。

【質問への対応(オフィスアワー・E-mail)】

質問は、授業中および授業終了直後等に適宜対応する。

また、情報基盤センター(教室棟1階A105 室)で随時受け付ける。原則として平日の9時～17時で対応するが、状況によって別途時間を調整する。
なお、電子メールで質問しても良い(cict@dokkyomed.ac.jp)。

[備考]

- 本科目は、情報基盤センターが担当し、本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として位置付けられている。
- 講義資料は事前にLMSに掲載し、学生の学修状況を確認する。
- 演習時は、与えられた課題に基づいて小グループでディスカッションを行い、各々の意見を発表し合う。
- 講義内でLMS等を用いて学生の理解度を確認し、補足説明をする。
- 成績評価の結果は、「授業評価の回答および成績評価の講評」に記載しフィードバックする。

<医学部 令和6年度>

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プラットフォームシヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・マインド		社会的視野		人間性	
			人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	卒業臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
必修	教養医科学	1学期					◎		○			○		◎	○	
	これからの時代を生き抜くための医師のキャリアプラン	通年							◎		○	◎	○		○	
	メデイカル・プロフェッショナルリズムI	通年					◎	◎	○	○	○	○		◎	◎	
	スタディ・スキルズ	1学期					◎	◎	○	○				◎	◎	
	地域医療学	1,2学期	○	○			○	○				◎	○	◎	○	
	コミュニティヘルスイターンシップ (CHI) (地域医療早期体験実習)	1学期	○	○		○	○	○		○		◎		◎	◎	
	医学情報リテラシー	1学期					○	○	○	◎	○	○		○		
	スポーツ科学	1,2学期												○	◎	
	総合英語AI	通年											◎			
	総合英語B	1,2学期					○	○					○	◎	○	
	医学英語I	1学期					○	○					○	◎	○	
	数学	1学期							◎					◎		
	人体の物理学	1,2学期							◎	○				○		
	生体関連化学基礎	1,2学期	◎						○		○			○		
	物質の科学	1,2学期	◎						○	○						
	細胞の生物学I	1学期	◎							○						
外科入門	2学期			○	○								○			
早期臨床体験実習	2学期					◎		◎				○				
総合英語A II	2学期											◎				

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プラットフォームシヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・マインド		社会的視野		人間性	
			種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	卒業臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
必修	細胞の生物学Ⅱ	2学期	◎						○							
	物理学実験	2学期						◎	○						○	
	化学実験	2学期	○		○		◎		○	○					○	
	生物学実習	2学期	◎													
	統計学	2,3学期						◎		○	◎				○	
	総合英語AⅢ	3学期											◎			
	PBLテュートリアルⅠ	3学期					○	◎							○	○
	解剖学概論	3学期	◎	○					○	○	○	○				
	骨学・筋学	3学期	◎						○	○						
	組織学総論	3学期	◎	○						○						
	人体の発生学	3学期	◎	○						○						
生理学総論と生体の情報	3学期	◎	○					○	○	○						
生体分子とその代謝	3学期	◎						○	○	○	○					
人文自然選択Ⅰ	社会思想史	1学期							○	○					◎	◎
	異文化間コミュニケーション	1学期					○	○					○		◎	○
	異文化理解－ヨーロッパ編	1学期						○	◎						◎	○
	文章の論理	1学期							◎						○	
	異文化理解編－中国	1学期							○	○			◎		◎	◎
	文学	1学期													◎	○

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プラットフォームシヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・マインド		社会的視野		人間性	
			人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	卒業臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
人文自然選択Ⅰ	ドイツ文学	1学期													○	◎
	生命現象を考える	1学期							○		○				◎	
	フィクションとファクトから学ぶ医療倫理	1学期					◎	○		○					○	○
	化学実験初歩	1学期							◎							
	薬用・有毒植物図鑑をつくろう！	1学期	○							○					◎	○
	発生・生殖生物学	1学期							○						◎	◎
	健康科学	1学期							◎	○					○	
	アダプテッド・スポーツ	1学期					○	○	○	○			○		○	◎
	心理学と医療	1学期					○	○							○	◎
	分子生理学入門－遺伝子改造への道	1学期									○	◎				
	がん細胞を扱おう	1学期	◎	○					◎	◎	◎	◎				
	生命倫理と社会の課題を考えよう	1学期							◎				○		○	◎
	医学・生物学研究のためのプロレゴメナ	1学期					○			○	○	◎			○	○
	医療と人間・文化・社会	1学期					○	○					○		○	◎
名画で鍛える診療のエッセンス	1学期	○		○			○	◎	○					◎	◎	
医療と人権	2学期							○	○			○	○	◎	◎	
異文化間コミュニケーション	2学期					○	○					○		◎	○	

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プロフィールシヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・マインド		社会的視野		人間性	
			人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
人文自然選択	イギリス文学概観	2学期					○	○		○				○	◎	○
	異文化理解－ヨーロッパ編 旅、文化、歴史	2学期						○		◎					◎	○
	失敗の考察	2学期					○		◎		○		◎			
	中国語－音読	2学期						○		○			○		○	○
	『ハムレット』の独白を読む	2学期													◎	○
	ガストロノミーとフランス文学	2学期						○							○	○
	ドイツ文学	2学期													○	◎
	生命現象を考える	2学期									○				◎	
	化学実験初歩	2学期							◎	○						
	薬用・有毒植物図鑑をつくらう！	2学期	○								○				◎	○
	発生・生殖生物学	2学期								○	○				◎	◎
	線形代数の基礎	2学期								◎					○	
	健康科学	2学期								◎	○				○	
	臨床心理学	2学期					○	○							○	◎
医学と生化学	2学期	○						◎	○	○	○	○		○	○	
II	日本発の医療・創薬を学ぶ	2学期	○							○		◎				
	がん細胞を扱おう	2学期	◎	○					◎	◎	◎	◎				
	遺伝子工学入門：光る大腸菌をつくらう！	2学期								◎	○					

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プラットフォームシヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・マインド		社会的視野		人間性		
			人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
人文自然選択Ⅱ	ノーベル賞から学ぶ免疫学	2学期	○					○	◎	○							
	がん免疫療法の誕生	2学期						○	○	◎	◎		○	○	○		
	デジタル空間・ロボット等を通して医療・教育におけるSociety5.0を学ぶ	2学期								○		◎	○				
	精子のはなし	2学期	○				○		○		◎			○			
	研究の倫理と科学を考えよう～社会に結び付く研究って何だろう?～	2学期						◎				○		○		◎	
	国際感染症学入門	2学期		○									○	◎	○		
	最後の日々と時間	2学期						◎	◎		○		○	○	○	○	
名画で鍛える診療のエッセンス	2学期	○		○			○	◎	○					◎	◎		
人文自然選択Ⅱ	社会思想史	3学期						○	○						◎	◎	
	異文化間コミュニケーション	3学期					○	○					○	◎	○		
	医学の中の語	3学期					◎		○						○		
	異文化理解－ヨーロッパ編	3学期						○	◎						◎	○	
	文章の論理	3学期							◎						○		
	異文化理解－中国編	3学期							◎	○	○		◎	◎	◎	◎	
文学	3学期													◎	○		

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プラットフォーム シヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・ マインド		社会的視野		人間性	
			人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。
人文 自然 選択 Ⅲ	ガストロノミーとフランス文学	3学期					○								○	○
	ドイツ文学（読解）	3学期													○	◎
	感じて、見て、考える、放射線の基礎	3学期				○		◎	○						○	○
	生命現象を考える	3学期									○				◎	○
	フィクションとファクトから学ぶ医療倫理	3学期					◎	○		○					○	○
	化学実験初歩	3学期							◎	○						
	大学構内の自然観察	3学期	○												◎	○
	発生・生殖生物学	3学期							○	○					◎	◎
	スポーツ医学について学ぶ	3学期							◎		○		○		○	
	発達心理学	3学期					○	○							○	◎
医療倫理と決断の悩ましさを考えよう	3学期				◎						○			○	◎	
工学発展と医学研究	3学期					○				○						
名画で鍛える診療のエッセンス	3学期	○		○		○	◎	○						◎	◎	
語学 選択	ドイツ語	通年							○	○			◎	○	◎	
	フランス語	通年							○	○			◎	○	◎	
	中国語	通年							○	○			◎	○	◎	
	ロシア語	通年							○	○			◎	○	◎	

区分	授業科目	学期	医学知識		臨床能力		プラットフォーム シヨナリズム		能動的学修能力		リサーチ・ マインド		社会的視野		人間性		
			人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	卒業臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
自由選択	医学研究室配属 I	通年	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域包括医療実習 I		○	○			○	○	○			◎		◎	◎	◎	
	物理学（基礎・演習）							◎	○						○	○	
	物質の科学演習	1,2学期	○					◎									
	実践で学ぶロジカル・プレゼンテーション	2,3学期					◎	○		○					○	○	
	化学基礎	1学期	○						◎								
	病理学演習		◎	◎				◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	
	細胞の生物学Ⅰ勉強会	1学期	◎							○							
	細胞の生物学Ⅱ勉強会	2学期	◎								○						
	やさしくわかる臨床疫学・統計解析										○	○	○			○	
	再生医学入門			○							◎	○					
	読書会						◎	○	◎	◎					◎	○	
	失敗しない医学の学び方	1学期					○	○	◎	○	○				○	○	
	「エビデンス」とは何か？クリティカルシンキングを身に付ける				○					○	○	◎	○				
	生殖学		◎	◎			○		○	○	○				○		
最先端分子医学研究入門-目指せ、世界の研究医！難病解明へ挑む-		○	○						○	○	◎	◎	○	○	○	○	
眼科学		○							○					◎	○		

<看護学部 令和6年度>

カリキュラム・マップ（令和6年度入学生）

区分	領域	授業科目	配当年次	時間数	コマ数	単位数			探求心を持ち、自己を教育し続けることができる。	科学的思考を備え、根拠に基づいた看護を実践できる。	自らの役割と責任を理解し、人々と協働できる。	プロフェッショナリズムを身につけ、倫理的行動をとることができる。	グローバルな視野で、多様性を尊重することができる。
						必修	選択	自由					
基盤科目	人文科学	哲学	1前	15	8		1		○				◎
		文学	1前	15	8		1		○				◎
		芸術	4後	15	8		1		○				◎
		ジェンダーとセクシュアリティ	1前	15	8		1					○	◎
		生命倫理学	1後	15	8		1			○		◎	
		宗教学	3前	15	8		1			○			◎
		壬生の歴史と文化	1後	15	8		1			○			◎
	自然科学	化学	1前	15	8		1		○	◎			
		生物学	1前	15	8		1		○	◎			
		人間工学	1後	15	8		1		○	◎			
		生活環境論	1後	15	8		1		○	◎			
		地球環境論	3前	15	8		1		○				◎
	社会科学	天文と気象	4前	15	8		1		○				◎
		ボランティア論	1前	15	8		1				◎		○
		人間と歴史	1後	15	8		1		○				◎
		社会学	3前	15	8		1		○				◎
		異文化理解	4前	15	8		1					○	◎
		国際社会の動向	2,3前	15	8		1				○		◎
	アカデミックスキル	■スポーツと健康	1前	45	23		2			○	◎		
		■日本国憲法と人権	1後	30	15		2					◎	○
		コミュニケーション英語	1前	30	15	1			○				◎
		医療英語	1後	30	15	1			○				◎
		実践英語	2,3後	30	15		1		○				◎
		アカデミック英語	4前	15	8		1		○				◎
		中国語 ※	2前	30	15		1		○				◎
		韓国語 ※	2前	30	15		1		○				◎
		フランス語 ※	2前	30	15		1		○				◎
		ドイツ語 ※	2前	30	15		1		○				◎
		情報リテラシー	1前	30	15	2			○			◎	
		教育原論	1前	30	15	2			◎			○	
		統計学	1後	15	8	1			○	◎			
	アカデミックスキル基礎	1前	30	15	1			◎	◎	◎	◎	◎	
	アカデミックスキル応用	1後	30	15	1			◎	◎	◎	◎	◎	
	情報技術の進歩と医療	3前	15	8		1		○			◎		
	健康	人体の構造Ⅰ	1前	30	15	2			○	◎			
		人体の構造Ⅱ	1前	15	8	1			○	◎			
人体の機能Ⅰ		1後	30	15	2			○	◎				
人体の機能Ⅱ		1後	15	8	1			○	◎				
生化学		1後	15	8	1			○	◎				
発達心理学		1前	30	15	2			○	◎				
病態治療内科学		2前	30	15	2			○	◎				
病態治療外科学		2前	30	15	2			○	◎				
微生物学		1後	15	8	1			○	◎				
病理学		1後	15	8	1			○	◎				
薬理学		2前	15	8	1			○	◎				
臨床栄養学		2前	15	8	1				◎	○			
臨床検査		2前	15	8	1				◎	○			
■臨床心理学		2後	15	8		1			◎	○			
リハビリテーション論		3前	15	8		1			◎	○	◎		
放射線と看護		2後	15	8		1			◎	○			
東洋医学		2後	15	8		1			◎	○			
補完代替療法		3前	15	8		1			◎	○	◎		
社会保障論		2前	15	8	1				◎	○			
公衆衛生学		1後	15	8	1				◎			○	
■疫学・保健統計		3後	15	8		1		○	◎				
保健医療福祉行政論		2後	30	15	2				◎	○			
■学校保健と産業保健		3前	15	15		2			◎	○			
■周産期医学	3前	15	8		1		○	◎					
多職種連携論	2前	15	8	1				◎		○			
専門基盤科目	看護	看護学原論	1前	30	15	2			○			◎	
		看護倫理	2後	15	8	1			○			◎	
		看護人間関係論	1前	30	15	2				○		◎	
		日常生活援助論	1前	60	30	2				◎			○
		診断-治療援助論	1後	60	30	2				◎			○
		看護過程展開論	2前	30	15	2				◎			○
		フィジカルアセスメント	2前	30	15	2				◎			○
		成人看護学	1後	15	8	1				◎			○
		高齢者看護学	1後	15	8	1				◎			○
		高齢者看護方法論	2前	30	15	2				◎			○
		急性期看護学	2後	15	8	1				◎			○
		急性期看護方法論	3前	30	15	2				◎			○
		慢性期看護学	2後	15	8	1				◎			○
		慢性期看護方法論	3前	30	15	2				◎			○
		母性看護学	2前	15	8	1				◎			○
		母性看護方法論	2後	30	15	2				◎			○
		小児看護学	2前	15	8	1				◎			○
		小児看護方法論	2後	30	15	2				◎			○
		在宅看護学	2前	15	8	1				◎			○
		在宅看護方法論	2後	30	15	2				◎			○
		精神看護学	2後	15	8	1				◎			○
		精神看護方法論	3前	30	15	2				◎			○
		公衆衛生看護学	2前	15	8	1				○	◎		
		公衆衛生看護方法論	2後	30	15	2				○	◎		
		エンドオブライフケア論	3前	15	8		1			○			◎
		がん看護学	3前	15	8		1			○			◎
		■感染看護学	3前	15	8		1			○			◎
		■災害看護学	3前	15	8		1			○		○	◎
		家族看護学	3前	15	8		1			○			◎
		医療安全	3前	15	8	1				○		○	◎
		国際看護学演習	2,3後	30	15		1			○			◎
■看護概説	3前	30	15		2			○		◎			
■女性の基礎科学	2後	15	8		1			◎		○			
■助産学概論	3前	15	8		1			◎	○		◎		
■産褥期助産診断・技術学	3前	15	8		1			◎		○			
■新生児・乳幼児期助産診断・技術学	3前	15	8		1			◎		○			

区分	領域	授業科目	配当年次	時間数	コマ数	単位数			探求心を持ち、自己を教育し続けることができる。	科学的思考を備え、根拠に基づいた看護を実践できる。	自らの役割と責任を理解し、人々と協働できる。	プロフェッショナリズムを身につけ、倫理的行動をとることができる。	グローバルな視野で、多様性を尊重することができる。	
						必修	選択	自由						
専門科目	実践	コミュニティヘルスインターンシップ	1前	45		1			◎	◎	◎	◎	◎	
		看護学基礎実習	1後	45		1			◎	◎	◎	◎	◎	
		日常生活援助実習	2後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		高齢者看護学実習	2後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		多職種連携実習	2後	45		1			◎	◎	◎	◎	◎	
		急性期看護学実習	3後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		慢性期看護学実習	3後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		母性看護学実習	3後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		小児看護学保健実習	2後	45		1			◎	◎	◎	◎	◎	
		小児看護学医療実習	3後	45		1			◎	◎	◎	◎	◎	
		在宅看護学実習	3後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		精神看護学実習	3後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		看護統合実習	3後	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
		課題探究実習	4前	90		2			◎	◎	◎	◎	◎	
	発展	看護研究方法論	3前	15	8	1			◎	○				
		国際看護学	4前	15	8	1					○		◎	
		看護管理	4前	15	8	1					◎	○		
		看護理論	3後	15	8		1			○		◎		
		クリティカルケア論	3後	15	8		1			○		◎		
		臨床推論	3後	15	8		1			○		◎		
		看護教育	4後	15	8		1			○		◎		
		遺伝看護学	4後	15	8		1			○		◎		
		看護と政策	4後	15	8		1				○	◎		
		キャリアデザイン	1通	15	8	1			◎			○		
		キャリアデザイン演習	2通	30	15	1			◎			○		
		キャリア発達論	4後	15	8	1			◎			○		
		卒業研究ゼミナール	4前	30	15	1			◎	◎	◎	◎	◎	
		卒業研究	4通	60	30		2		◎	◎	◎	◎	◎	
		保健師課程 自由科目	公衆衛生看護展開論	4前	30	15			2		○	◎		
			地域保健実習	3後	45				1	◎	◎	◎	◎	◎
			公衆衛生看護学実習	4前	135				3	◎	◎	◎	◎	◎
		助産師課程 自由科目	地域母子保健	3後	15	8			1		◎		○	
妊娠期助産診断・技術学	3後		15	8			1		◎		○			
分娩期助産診断・技術学	3後		15	8			1		◎		○			
ハイリスク助産診断・技術学	3後		15	8			1		◎		○			
助産診断・技術学演習	4前		60	30			2		◎		○			
助産管理	4前		15	8			1			◎	○			
助産学継続事例実習	4前		45				1	◎	◎	◎	◎	◎		
助産学実習	4前		405				9	◎	◎	◎	◎	◎		
助産学助産管理実習	4前	45				1	◎	◎	◎	◎	◎			
養護教諭課程 自由科目	教職概論	1前	15	8			1			○	◎			
	教育制度論	1前	15	8			1			◎	○			
	特別支援教育概論	3前	15	8			1			◎	○			
	生徒指導論	1後	15	8			1			◎	○			
	教育相談論	1後	15	8			1			◎	○			
	道徳・特別活動・総合的学習指導論	3前	30	15			2			◎	○			
	教育課程論	1前	15	8			1			◎	○			
	教育方法論	3後	30	15			2			◎	○			
	★教職総合演習(選)	3後	15	8			1	○			◎			
	教職実践演習	4後	30	15			2	○			◎			
	養護実習	4前	30				5	◎	◎	◎	◎	◎		

◎:強く関連するDP ○:関連するDP

獨協医科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) 取組概要

この教育プログラムは、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それらを活用するために必要な知識および技術を、全ての学生が修得できることを目的としています。

【教育プログラムの構成】

全学部の全科目を初年次必修科目として設置しています。各学部に対応した次の科目を全て修得しなければなりません。

対象学部	科目名	単位数・区分
医学部	医学情報リテラシー	1単位・必修
看護学部	情報リテラシー	2単位・必修

【教育プログラムの支援体制】

本教育プログラムを担当する情報基盤センターでは、平日8時30分から17時の間、常に授業の質問等への対応をできる体制を整えています。さらに、ICT利活用に関するサポートも含めて、幅広い支援を行っています。

なお、上述の時間以外にも、LMSやメール等による質問受付と対応を随時行っています。

【学修内容の概要】

教育プログラム全体を通して、モデルカリキュラムと対応した全ての学修項目について学修します。特徴的な授業内容は次のとおりです。

学修項目	特徴的な授業内容
現在進行中の社会変化	日本が目指すべき未来社会の姿であるSociety 5.0の考えを踏まえた社会の変革について学修し、それらが医療・介護の領域にも密接に結びついていること、および、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解します。
社会で活用されているデータと活用領域	医療や看護等、社会の様々な領域において多様なデータやAIが活用されていることを学修し、それらが社会の様々な課題を解決できる有用なツールであることを理解します。
様々なデータの利活用事例	人工知能とは何か、機械学習の概要、Google Teachable Machineの画像認識を利用した演習を通して、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビックデータの関係、認識技術等について学修します。
活用に当たっての様々な留意事項	配慮すべき情報セキュリティ、情報倫理等について学修するとともに、安全なマルウェアの感染等を体験し、その具体的な対策方法について理解を深めます。また、AI活用における負の事例についても事例を取り上げ学修します。
データを読む・説明する・扱う	学生自身が回答したアンケート結果を利用した分析を行い、その結果をレポートにまとめる学修を通して、種々の分析手法やデータの表現（グラフ）、データの集計、読み方、扱い方、説明の仕方について学修します。